

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 91

学校名・団体名	北栄町立北条中学校
HPアドレス	http://www.torikyo.ed.jp/hojo-j/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	ブルーシートから見る私たちの町の被災、そして復興へ
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本校は昨年度、生徒が地域に根ざした学習を進める中で、「設定されたテーマから自分の課題を発見」し、「友だちとの協同の中で」その解決を図る学習の実現を目指して取り組みを進めてきました。今年度の研究では、鳥取県中部地震の被災状況や、各方面からの支援、復興・復旧への歩みに視点を定め、研究テーマも教師設定の課題から選択するのではなく、「生徒から出された課題意識」をもとに設定し、実践を進めました。</p>	

1. はじめに

本校は平成28年度、「地域に根ざして課題の発見・解決を促すプロセスの構成」をテーマに研究を進め、地域に根ざした学習の中で、「設定されたテーマから自分の課題を発見」し、「友だちとの協同の中で」その解決を図る学習の実現を目指して取り組みを進めました。その中で生徒は、本町出身者原作のテレビアニメを地元の方言でアフレコしたり、私たちの町の礎を築いた先人の歩みに学んだりしながら学習を展開しました。

そのような中、一昨年10月鳥取県中部地震が発生し、本町も震度6弱の強い揺れに襲われました。その復旧・復興に取り組む中で、生徒から「なかなかブルーシートの家が減らんあ」というつぶやきや、「被害が大きかったのはこの町にも断層があるのかな」などの発言から、地震のメカニズム、本町の被災状況、家屋を修理してくださる職人さんの不足、町外から寄せられた支援など、多くの生徒が「自分なりの課題を見出す」こととなりました。

このことは、前年度教師が設定したテーマの中で生徒が自らの課題を見つけようとする態度が育ってきたことによるものと考え、本年度は「鳥取県中部地震」を糸口として、ブルーシートや地震のメカニズム、復旧に携わる方々を取り巻く状況など「生徒から出された課題意識」をもとにテーマ設定し、実践を進めました。調査・探求に向けて友だちと協力して取り組み組むことにより、各教科・領域の基礎的・基本的事項についても定着を図ることを目指して研究に取り組みました。

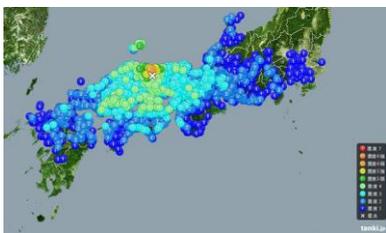
2. 活動内容

A. (1) 教科：理科（7月～10月）

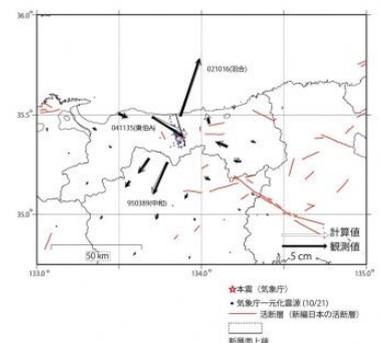
(2) 対象者：3年生

(3) 題材名：「鳥取県中部地震とはどんな地震だったのか」

(4) ねらいと活動内容：鳥取県中部地震では建物の被災が多く、自宅が被災した生徒もありました。「家が被災したのは断層の影響?」「震源（震央）からの距離に関係するかな?」など、教科の学習をベースに、私たちの町に根ざした課題意識が多く出てきました。鳥取県中部地震については、たくさん観測データや専門家の考察・分析が提供されており、生徒は「自分の課題意識」をもとにデータを検索し、考察を進めました。通常の学習では一般的なモデルで学習が進みますが、生徒は自分の町のこと、自宅を襲った地震のことをテーマに学習を進め、これまで知られていなかった断層の可能性など多くのことを発見し、カラー印刷や大判印刷などにまとめました。



(出典：日本気象協会、国土地理院)



B. (1) 教科：社会科及び総合的な学習の時間（7月～11月頃）

(2) 対象者：2年生

(3) 題材名：「ブルーシートの行方」

(4) ねらいと活動内容：昨年度先人の足跡に学ぶ取り組みを行ってきた2年生の「昨日家のブルーシートが取れた」というつぶやきに呼応して、「屋根の職人さんが少なくて大変だって」、「県外から1年くらいのつもりで来とんなる職人さんもあるだって」など、復旧・復興にむけての話題が出てきました。7月の職場体験で建築・建設業に携わることができるのはごくわずかですが、社会へまなざしが開き始めるこの時期に、県内の建築関係の就労人数の推移、技能職の県内外の流入・流出の実態、町からのブルーシートの貸出支援、役割を終えたブルーシートの再利用など、統計資料や新聞記事を活用しながら、自らの課題意識に沿って調査に取り組み、カラー印刷や大判印刷などにまとめました。



(出典：鳥取県、鳥取ブルーシートプロジェクト)

北栄町内 空撮調査対象地区におけるブルーシート家屋の数 (棟数)

	H28.11.2	H29.4.5	H29.5.19	H29.8.17	H29.9.29	H29.10.17
K市	48	-	19	17	11	9
M町	129	82	52	19	11	10
Y町	69	40	25	15	14	13
北栄町	91	61	42	29	19	19
計	337	183	138	80	55	51

(H28.11.2を基準とした割合)

	H28.11.2	H29.4.5	H29.5.19	H29.8.17	H29.9.29	H29.10.17
K市	-	-	40%	35%	23%	19%
M町	-	64%	40%	15%	9%	8%
Y町	-	58%	36%	22%	20%	19%
北栄町	-	67%	46%	32%	21%	21%
計	-	-	41%	24%	16%	15%

ブルーシート大作戦 in 鳥取始動
ワークショップ 8月22日開催
 ブルーシートをリサイクルして復興を支援しよう。
 8月22日(火) 10時～12時 上瀬公民館(鳥取県倉吉市上瀬町9-1)
 参加費 無料
 主催 鳥取ブルーシートプロジェクト

SPREAD THE BLUE SEED.

- C. (1) 教科：社会科（11月）
 (2) 対象者：3年生
 (3) 題材名：「これからの北栄町」
 (4) ねらいと活動内容：昨年度と同様、3年生が町長をお招きして社会科の授業を行いました。これは公民的分野の「地方自治に関する学習」の一環で、地方自治体が抱える問題と将来について考えるものです。震災の復興に向けて、さらにその先を見つめて、北栄町の現状と中学生へのアンケート結果を組み合わせ町長に企画を提案しました。柔軟な発想の中に学習や調査にもとづいた建設的な意見を織り交ぜ、プレゼンや大判印刷によるポスターセッションで夢が溢れる提案をしました。町長さんも一つひとつの提案に丁寧に回答してくださり、町の未来を担う中学生へエールを送ってくださいました。



- D. (1) 教科：英語科（9月頃）
 (2) 対象者：3年生
 (3) 題材名：「北栄町英語MAPを作ろう」
 (4) ねらいと活動内容：私たちの町北栄町は、人気アニメーションの「聖地」として、国内外から毎年多くの観光客が来られます。また、海岸線に並ぶ風力発電風車も独特な景観を作ります。英語科の学習の一環として町内の名所を紹介するキャプションをラミネートや大判印刷により作成し、地域を題材としながら、自分が伝えたい内容を適切に英語で表現する力を育みました。

3. おわりに

昨年度の取り組みから一步進めて「生徒から出された課題意識」をもとに課題設定し、「生徒の協同により課題解決を図る」実践を進めることにより、生徒の中にいっそう「自分で課題を立てよう」、「自分たちで解決への道筋を探してみよう」とする姿勢が表れてきたと感じています。そして、そのような課題意識をベースに学習を組み立てることにより、生徒が学習に取り組む姿勢も自然と積極的・主体的になり、教科の学習でおさえおきたい基礎的・基本的な事項についても、教師が教えるまでもなく生徒が自然と発見したり、導き出したりする場面が見られました。その一例として数学科の活動を示します。

- E. (1) 教科：数学科（2月頃）
 (2) 対象者：2年生
 (3) 題材名：「確率」
 (4) 生徒の活動：2年生数学科における「確率」の学習では、「数学的確率」として、「すべての場合の数」をもとに「条件にあてはまる場合の数」を求め、その割合を「確率」とする学習が中心となります。今回も従前と同様の授業計画で指導を進めていたところ、「先生、確率が1/6なのに、なんでさいころを投げた時に、「1」の目が出るのが6回に1回にならないんですか？」との疑問が提起され、その疑問について相当の時間を費やして学級で話し合いました。
- 新しい学習指導要領では確率について、「不確定な事象について何が分かるのかという確率本来の意味をしっかりと理解すること」に特に注意を促しています。生徒から提起された課題意識をもとに学習を進めたことにより、「割合が出れば確率が求められるよ」といった従前の指導と比べて、確率本来の意味に迫る学習となったと感じています。

このように、本研究により、これまで本校が取り組んできた実践をさらに一步進めることができたと感じています。今後は、生徒一人ひとりが、自分はどうのことに課題意識を持ち、どのような方法で学ぼうとし、友だちとの協同により何を学び、何ができるようになったのかなどを「学びのポートフォリオ」としてまとめ、自分の学習履歴を振り返ったり、さらに自分の学習を進めるために必要な方向性を見出したりするのに必要な支援はどのようにあるべきかなどについて、研究をさらに進めていきたいと考えます。